

静岡県浜松市の浜松開誠館理事長が
成功させた学校改革。
平成8年から現在までで1学年の生徒数を2.5倍に増やした
高林一文理事長のこれまでの学校改革と
最新の一手をレポートする。

写真 釣巻 崇



高林一文理事長。穏やかな口調で語られる学校改革の話は革新的な内容だった

少子化の10年に生徒数数倍増を実現
浜松開誠館理事長の学校経営
浜松開誠館中学校・高等学校

SCHOOL DATA

学校名	浜松開誠館	設置学科	
住所	〒430-0947 静岡県浜松市 松城町207-2	中学校	特別進学コース / 総合コース
電話	053-456-7111	高等学校	スーパー理数コース
創立	1924(大正13)年4月	新年度より	進学コース 類・類 総合コース
校長	内山賢二	高校2・3年生	特別進学コース 総合選択コース
		URL	http://www.kaiseikan.ed.jp/

就任時の厳しい 経営状態に 「このままでは だめだと思った」

2007（平成19）年の政令指定都市化を目指す静岡県浜松市は、05年に周辺の11市町村を合併し、全国2位の面積と80万人の人口を持つ。豊かな山海湖沼と温暖な気候という恵まれた環境、穏やかな人柄で知られる

土地柄である。

そんな豊かな浜松にあっても少子化の波は避けられず、私学経営は厳しい状況だ。全体として公立優位の状況であり、来年には私学にとつてより厳しさが増すと予想される新入試制度も始まる。浜松開誠館のある浜松駅周辺には8つの私学が集中しているが、今年度に向けた入試の結果はすべての私学が定員割れという状況となった。

浜松開誠館は1924（大正

13）年に誠心高等女学校として長谷川鉄雄氏により創立された。98（平成10）年より男子にも門戸を開き、浜松開誠館中学校・同高等学校に校名を変更し現在にいたっている。中学生342名・高校生645名（計987名/06年4月1日現在）が在籍している。写真にある現在の校舎は00年2月に完成したもので、1万2000平方メートルの敷地に耐火被覆鉄骨地上9階建の最新の建物が建築され、他に40

00平方メートルのアリーナ棟、4万2000平方メートルの広大な運動場を備える。

一気呵成の抜本改革

現理事長の高林一文氏は少子化の波に一刻の猶予もない96年に理事長に就任した。PTA会長、理事を歴任し周囲の声におさされての就任だった。高林理事長は、「市議会議員でもあり教育畑ではない自分には務まらないと思いましたが、理事の皆さんが一致協力してくれるということで、開き直った気持ちでした」と就任当時の振り返る。

理事時代「PTA会長時代にはわかりませんでした。理事として学校経営を見て財政の厳しさに驚きました。就任当時中学1学年の生徒数は50名。このままではだめだ



浜松市内を一望できる浜松開誠館校舎



最上階の図書館には燦々と日が差し込む。すべての図書がデータ化され、簡単に検索・閲覧できる

ままではだめだ



全国制覇を成し遂げた中学校サッカー部



空手道や剣道も盛ん。文武両道が基本だ



と思った。抜本的な改革が必要でした」という高林氏は理事長就任とともに、一気呵成に改革に取り組んだ。

学校改革の第一歩は、財政健全化のため、公立高校にくらべて優遇が顕著だった教員の待遇面の見直しだった。定年も遅く退職金も高額だった状況を「公立に準じる」基準で見直した。

「ここがうまくいかなければ、他の改革はできない」という気持ち

でした。しがらみのなかった自分だからできたのでしょ」

（高林理事長、以下同）。話し合いは半年間続き、連日深夜まで激論を交わすことも度々あったという。「私はこの学校がつぶれても困らない。しかし、先生方は困るでしょう。先生方のための改革なんです」という粘り強い説得により合意をとりつけ、半年で見直しを履行した。

最難題を最初に乗り越ええたわ

けだが、改革の手綱は緩まない。県の指導で行なわれた耐震診断で「早急な改築が必要」と診断された校舎の改築、共学化、生徒募集強化、広報室設置等々と矢継ぎ早に施策を履行していった。「改革というのは一気に断行してこそ効果がある」という経営方針からだった。

新校舎建設では、とにかく予算がない。県の建築基準単価での設計積算は36億円必要とされたが、金融機関等から借り入れでも設計予算は22億円。予算がないからといって安全性のレベルを下げることはできない。そこで高林理事長は大胆な策を講じる。

「談合を阻止し常識ある入札をするために、地元業者は指名を入れないことにしました。スーパージェネコンのみにしたのです。そして公の場で、予算は約22億しかないと言いました」

その結果、熊谷組が当初の設計積算36億円を大幅に下回る22億8千万円で落札。これには地元の県会議員や県庁も驚き、「これだけの設計がどうしてそんなに安くできるのか」と視察にくるほどだった。

続いて校名変更、男女共学化



にとりかかったものの、もともと高林理事長自身は学校に縁がなかったため同窓会などで無理解が得られずに「辛いものがあった」という。しかしこれも学校運営を健全にするためには必要と判断し断行。結果として共学化初年度は定員オーバーを達成する。

用地問題で苦労したものの約4万2000平方メートルの広大なグラウンドも新設し、共学校としての設備も整えた。現在では中学校のサッカー部が全国大会で優勝するほど部活動も盛んに行なわれている。また、この頃には当初反対されることの多かった同窓会からも、よい学校にしてくれたと理解されるようになったという。

高林理事長は、生徒募集でも



爽やかなブレースライプのワイシャツは清潔感があって見た目にも心地よい。男女比は4対6で若干女子が多い

就任時に50名だった中学校の1学年の生徒数は少子化に反比例するように120名と増加し、04年には創立80周年記念式も盛大に挙行された。

新たな10年のためのさらなる一手 『7つの習慣』の導入を即決

思い切った手段をとる。「中高併設ですから、とにかく中学校の生徒募集が要になります。そこを集中して強化しました」。広報室を設置し、民間から優秀な人材を確保し営業活動を本格化する。採用にあたっては、「営業経験者で同年代の子供を持つ人」を選んだという。それまでの学校回り、塾回りだけでなく各家庭にも直接訪問した。学校案内のビデオを制作し最初の訪問で配布する。次の訪問ではより詳しく説明し学校訪問につなげていった。

数々の改革は成功し、理事長

96年の就任から10年が経過した今年06年、数々の大胆な改革により学校経営の難局を切り抜けた高林理事長は11年目にあたって「新たな10年」改革に挑もうとしている。「長引く少子化は近年さらに私学への影響が大きくなっていきます。本校も今年は生徒数が減りました。子供が少ないからといって、公立が手を引くとは考えられない。さらに次の10年を見据えた改革が必要です。少子化への危機感の反面、教育にお金をかけやすいともいえます。手厚い教育で選ばれる学校を目指します」と語る。「真の中高一貫教育を目指し、カリキュラムの見直し・生徒指導・生徒募集の3つの小委員会を設置し、調査・研究を進めています。最終的には生徒募集は

中学校だけに絞り、現在の120名から180名を目標にします」。大変厳しい目標だが不可能ではないと高林理事長はいう。他校において生徒数導入前年比120%という実績をもつ『7つの習慣』の導入も大きな一手だ。

「勉強をしない子供たち。社会問題化している親子の問題等々は地元の保護者たちにとっても明日はわが身なのです」。こういった社会問題を本質的に解決する教育こそ求められていると感じていた高林理事長にとつて『7つの習慣』はうつつつけだった。

「何のために勉強するのかを子

供たち自身が理解すれば自ずと人間性が育つていくのです。それを教えてくれる『7つの習慣』の話の聞き、即決で導入を決めました」。浜松開誠館では今年10月から中学高校とも必須授業として『7つの習慣』を取り入れる。

まさに辣腕といえる改革を成し遂げた高林理事長に学校経営について聞くと、「伝統を重んじて経営するということはありません。経営者である私は先生方が安心して教育に専念できる環境をつくるのが仕事です。それが結果として本校の歴史と伝統になっていくのです」と締めくくった。



外側の八角形は真澄の鏡といって、よく澄んだ鏡をかたちどったもの。そして円の中の三角形の部分は、心という文字を組み合わせ模様化したもの。鏡の中に心を映した「誠の心」をあらわしている